

# 歯のないところ、ありませんか？

歯周病やむし歯、事故などで歯を失った場合、そのまま放置しておく、さまざまな問題が生じます。ではいったい、どのような処置をすればよいのでしょうか。失った歯を補う方法として代表的な3つを挙げ、解説します。

## ■失った歯を放っておくと…

歯周病やむし歯、事故などで失ってしまった歯をそのままにしておくと、見た目の問題だけでなく、機能面でも大きな問題が発生します。抜けた歯と咬み合っていた歯が伸び出してきたり、両隣の歯が傾いて少しずつ動いてきたりしてしまいます。歯の位置が動いてしまうことによって咬み合わせの機能が低下してしまいます。咬み合わせが悪くなると咀嚼機能が低下し、顔面の筋肉の衰えから輪郭が変化したり、胃腸への負担が増加したりします。また脳への刺激が減少し、肩こり・頭痛の原因にもなります。

失った歯がある方は、早めの処置をおすすめします。早ければ早いほど、多くの治療法の選択が可能です。失った歯を補う方法として、大きく3つの治療法があります。

### ①ブリッジ

#### ②義歯（入れ歯）

#### ③インプラント

以下、それぞれについて解説します。

### ①ブリッジの場合

ブリッジの作成は、素材やつくり方によって保険適用範囲内で治療できます。失った歯の両隣の歯を削って土台とし固定するので、義歯のような取り外しがなく、快適に使用できます。しかし、両隣の健康な歯を削ってしまうことは、デメリットになります。また、

両隣に歯がない場合はブリッジ作成ができないことがあります。

### ②義歯（入れ歯）の場合

義歯の作成も、素材によって保険適用範囲内で治療ができ、数多くの歯を失った場合にも対応可能ですし、取り外すことができるのでメンテナンスも楽です。ほとんどの歯科医院で作製可能なため、比較的安易に治療ができます。

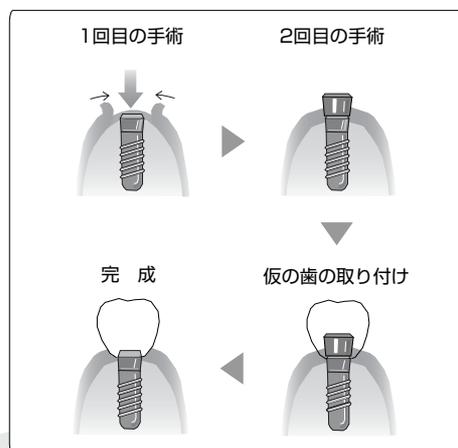
ただ使用感には個人差が随分あり、装着時に異物感を感じる方も多く、咀嚼効率も元の歯と比べて1/2〜1/3程度に落ちます。また、味覚や触感が損なわれるといわれる方も多く、「食事中や会話中に外れてしまうのでは？」などの不安から、消極的になってしまうという悩みを抱えている方も少なくありません。

### ③インプラントの場合

インプラント治療は、ブリッジのように周りの歯を傷つけることなく、また義歯のように外れてしまう不安や違和感を持たずに、元の歯と同じ感覚で咀嚼することができます。チタン製の安全な人工歯根を骨に埋め込み結合させるため、アフターケアをきちんと行えば、末永く元の歯と変わらずに噛むことができます。1本から複数本の欠損に対応し、審美的にも自然に美しく仕上がります。しかし、保険適用外となること（医療費控

除申請ができます）や、外科的治療が必要なため、他の治療法に比べて治療期間が長くかかるというデメリットもあります。

経験豊富なインプラント専門医がまだ少ない現状ですが、同じ悩みを抱えている人の話や信頼のおける歯科医院の紹介など、最近では雑誌やインターネットでもインプラントに関する情報が多く取り扱われていますので、ご利用ください。



## ■自分にふさわしい治療方法を

食べること・味わうこと・話し伝えること・笑うこと…、毎日の生活の中でお口がもたらすこの大きな喜びは、身体的にも精神的にも、とても重要な役割を担っています。それぞれのライフプランに合わせた治療方法を、かかりつけの歯科医師と一緒に検討し、快適でより良い人生を過ごしましょう！